

平成31年3月1日

卒業式 式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

「秀麗無比」と秋田県民歌で讃えられる鳥海山は、たおやかにも真っ白な勇姿を輝かせ、その山あいの雪解けのしずくは、大地を潤し、無数の溪流をつくり、そして日本海にそぐ豊かな子吉川の流れとなり、春の訪れを告げます。

今日のこの佳き日に、

秋田県知事 佐竹 敬久 様  
秋田県教育委員会高校教育課長 渡部 克宏 様  
本荘高等学校同窓会長 村岡 兼幸 様、  
秋田県議会議員 加藤 鉦一 様 を、

はじめとする御来賓の皆様と、多数の保護者の方々の御臨席を賜り、平成三十年度秋田県立本荘高等学校卒業証書授与式が挙行できますことに、心からお礼申し上げます。また、これまで卒業生の皆さんを支えてこられました保護者、御家族の方々に、心よりお喜びと敬意を表します。

ただいま卒業証書を授与しました全日制課程237名、定時制課程8名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。日々、桜坂の登下校で、四季それぞれの移ろいを感じ、友と語り合い、時に自己を見つめた時間は、本校での高校生活を暗示します。ヒマラヤスギ、アカマツ、ケヤキ、ナナカマド、イチヨウ、ツバキ、ウメ、サクラなど、種々の樹木に囲まれた本校での、かけがえのない学び、気づき、そして様々な体験を得た時間に重なります。桜坂と同じように、楽しかったこと、時につらかったことすべてが、卒業生の皆さんの成長の糧となっています。

本校のキャリア教育のテーマ「未来への眼差しが、今を輝かせる」の下、勉学に部活動に、そして運動会、玲瓏祭、クラス対抗にと打ち込んできました。多様な個性をもつ友と共に学びあった日々の授業、息詰まる競り合いの中、力を出し尽くした大会、クラスの団結力を発揮し合った生徒会行事、そして親しい友とのいつもの語らい……、すべてが青春期の貴重な時間です。東海インターハイには、柔道、弓道、ボート、ヨット、カヌーの5競技に出場し、3競技4種目で全国入賞を果たしました。

今年度、創設70周年記念式典が行われた定時制の卒業生の皆さんは、働いているからこそ日々の学ぶ意義を問い直し、様々な困難を乗り越え、今日の晴れの日を迎えました。全県定通高校総体で軟式野球が初優勝、全国定通高校総体の剣道女子個人では3位となる活躍を遂げました。

心の揺らぎ、悩みを経験する多感な高校時代、それゆえ人間、自然、文化、社会等、様々なことに対し、多くの知識を得たのみならず、多様なものの見方、考え方を広げ、深めることもできたはずです。全日制、定時制を問わず、卒業生の皆さんは、ここ本荘高校で未来へと拓かれた高校生活を過ごすことができたことと確信しています。

京都大学こころの未来研究センターは、2016年から日立京大ラボとの共同研究で、2050年日本は持続可能かという問いの下、人工知能を未来社会の構想や公共政策に活用する研究を行っています。将来世代への莫大な財政負担、社会的孤立度が高い日本社会、若者の生活の不安定、格差社会の拡大、地方の空洞化等、現代日本の状況から持続可能な

日本社会を構想する研究が進められてきたのです。約2万通りのシナリオの分析の結果、大都市一局集中型から地方分散型へ、更に地方での経済循環を高める様々な政策の継続的実行、幸福、健康を価値とするコミュニティづくり等が提案されています。真の豊かさを実現する時代への入口に立っているという認識の下、若い世代でのローカル、地元への深い関心が、今社会の潮流となっています。

2045年、秋田県の人口は約60万、高齢化率は50%を超え、全国一と推計されています。ふるさと秋田の持続的発展のために、本県は、農業の複合型生産構造への転換、成長産業の集積、ICT関連企業の進出、あるいは人工知能、ビッグデータ、インターネットによる自律的最適化という、第4次産業革命のイノベーションの活用によって、未来に挑戦を続ける「ふるさと秋田」創りに取り組んでいます。

一方、ヒト・モノ・カネ・情報が、かつてないスピードで国の枠組みを越えるグローバルゼーションの現代は、「VUCAの時代」と言われます。Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（不透明性）という4つのキーワードが示すように、世界は不安定で複雑、曖昧な状況が加速しています。世界で最も裕福な26人の資産の合計が世界人口の下位半分38億人の資産合計とほぼ同じ、そして世界の子どもの5人に1人が極貧状態にあるというのが、世界の現実です。国連は、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）として、2030年に向け地球上の誰一人も取り残すことなく、より幸せに生活できることを掲げています。

全日制、定時制に共通する本校の教育方針は、

- (1) 教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する
- (2) キャリア教育の充実の下、志高く自己実現を果たそうとする態度を育成する

となっています。

「未来」とは、生徒一人一人の未来、ここ本荘由利地区の未来、ふるさと秋田の未来、そして二十一世紀という未来のことです。「人間力」とは、予測困難なこれからの時代を、たくましくしなやかに切り拓いていく豊かな人間力のことです。

秋田県教育委員会米田教育長の卒業生への祝辞に、ノーベル物理学賞受賞者アインシュタインの言葉が引用されています。「Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.」失敗したことがない人というのは、何も新しいことに挑戦したことがない人だ、という意味です。「自己実現」とは、一回性の生にあって失敗を恐れず困難を乗り越え、生涯学び続けることによって、豊かな人生を主体的に創り上げていくということです。挑戦や失敗は、多くの気づきと学びを人に与え、しなやかに立ち上がる勇気、視野、そして広く深く考える力を与えてくれます。

「持続可能性」は、今地球において、日本において、そしてふるさと秋田において、時代の要請となっています。本校の重点目標の一つを表す、Think globally Act locally. これは、地球規模や大局的な視野で物事を考え、自分の持ち場、足元のことにはしっかり取り組むことの大切さを説く言葉です。生涯にわたって学び続け、未来を拓く人間力によって、雪解けの一滴一滴が大地を潤し、豊かな春の流れとなるように、一人一人が持続可能な社会の担い手として活躍し、未来を担う豊かな力になって欲しいと思います。

結びに、御家族、友人、先生方をはじめ、これまで卒業生の皆さんを見守り、陰で支えてくださった多くの方々がいらっしゃいます。改めて、その方々への感謝の念を思い起こして欲しいと思います。卒業生の皆さんの一人一人のこれからの人生が、健康と幸福に恵まれ、悔いのない生涯を送られることを祈りつつ、式辞といたします。